

## 2016 年度第 4 回 日本学連幹事会 議事録

開催日時：2017 年(平成 29 年)3 月 16 日(木曜日) 13:30~17:00

開催会場：琵琶湖国定公園 近江白浜 政府登録旅館 白浜荘

議事録作成者：坂野 翔哉（東京理科大学）

### 議題

全日本大会について .....	3
インカレスプリント会計について .....	8
会計中間報告 .....	10
インカレリレー特例措置について .....	11
加盟校形態について .....	15
ファミテックとの連絡について .....	16
地図管理について .....	16
後援大会申請 .....	17
技術委員会 .....	17
理事会報告 .....	17
各部局活動報告 .....	17
地区学連報告 .....	18
次回幹事会について .....	18

出席者（敬称略）

氏名	役職	学校名
山川 克則	副会長	東京大学卒
小泉 知貴	幹事長	慶應義塾大学
石山 良太	副幹事長	名古屋大学
成澤 春菜	会計/次期副幹事長	フェリス女学院大学
竹内 公一	次期会計	名古屋大学
矢野 峻平	次期事業部長	大阪大学
坂野 翔哉	広報部長	東京理科大学
吉澤 佳奈	事務局長	日本女子大学
細 正隆	普及部長	東北大学
臼井 沙耶香	次期普及部長	東北大学
堀江 優貴	渉外部長	東北大学
田口 茂樹	会計監査	岩手大学
田中 基成	会計監査	筑波大学
佐藤 遼平	次期会計監査	東京大学
丸山 真輝	次期北東学連幹事長	東北大学
高田 和樹	北信越学連幹事長	新潟大学
瀬川 出	関東学連幹事長/次期幹事長	東京大学
上野 康平	次期関東学連幹事長	東京工業大学
横田 智也	東海学連幹事長	名古屋大学
西嶋 就平	次期東海学連幹事長	名古屋大学
中村 哲	関西学連幹事長	京都大学
遠藤 匠真	次期関西学連幹事長	大阪大学
下江 裕貴	中四国九州学連幹事長	広島大学
山本 徳高	次期中四国九州学連幹事長	岡山大学

## 全日本大会について

### 要旨

2018 年度まで以下を適用する

- ・全日本 21E 権保有者は、インカレの地区学連セレクションを免除し、全日本 21E クラスを心置きなく走れるようにする。この適用は 2018 年度からである。
- ・セレクション免除者は現状与えられているインカレ選手権の 60 : 30 とは別枠での出走とする。ただし、選手権の価値や運営負担の観点から、免除者の数が 5 人を超えるようなことになればこの改革案の見直しを行う。
- ・全日本大会において地区学連セレクションを併設して行うことができる。日本学連幹事会が全日本大会の開催地から判断して地区学連を指定し、その地区学連総会にて承認がとられた場合、セレクションを併設する。
- ・全日本大会の開催時期はプロデューサーが設定する。ただし、学生側から時期の希望をとることができる。
- ・全日本大会の中心的な運営はプロデューサーが行うが、運営手伝いとして当該地区学連 OB に招集をかけることがある。
- ・テレインコントロールは 1 年以上前から行う。
- ・セレクションは、専用のセレクションクラスを設ける。出走人数が多くなる場合は地区ごとの分割を行う。
- ・セレクションを行う地区学連の全日本 20E(ジュニア選手権)クラスに参加する資格を持つ者は、セレクションと全日本 20E クラスのいずれかを選択して出走する。
- ・参加費は現状の学生地区学連セレクション並みにとどめる。
- ・インカレで好成績を残した者は、全日本 21E 権や公認 21E 権をとることが可能になる。JOA 理事会で承認された。

男子選手権：ロング入賞者は全日本 21E 権、15 位までが公認 21E 権

女子選手権：ロング入賞者は全日本 21E 権、10 位までが公認 21E 権)

男女ともにミドル入賞者に対し当該年度及び翌年度の 21E 権

### 今後の課題について

- ・議論が煮詰めきれていない
- ・実施してみないとわからない
- ・次のプロデューサーが山川さんと同じビジョンを抱くとは限らない
- ・時間的余裕がない

山川	<p>重要なのは関東圏からの参加者だと考えていて、日本学連幹事会から学生に対して全日本改革の意義がきちんと説明されていないように感じる。制度の詳細についての議論が多く目立ってしまっているが、意義について認識を共有したい。これまで金銭的及び興行的価値の下落が止められなかった全日本大会を、私が改革することで日本のオリエンテーリング界を建て直す。その一環で学生とその OB を全日本大会に参加させる。</p> <p>本来あるべき姿はインカレと全日本大会が相互に協力し、全日本大会はインカレ参加者を含む全ての競技者を取り込む大会としたい。全日本大会が沈めばオリエンテーリング全体が衰退するという認識が共有できていないと感じている。</p>
小泉	<p>全日本大会が潰れるとインカレが開催できなくなるという点の具体性がわからないので、日本のオリエンテーリング活動が衰退するという危機感が沸かない。その点について説明をしていただきたい。</p>
山川	<p>こんなマイナースポーツがこれだけ長く続いている理由について考えて欲しい。インカレの絶対的価値の 1 つは学生の自治権、これを獲得整備したのは当時学生だった私である。読売新聞社のスポンサーがついていた初期のインカレ運営体制から脱却し、学生の自治権を得た。根回しありきのオリエンテーリング活動の前提は JOA の存続である。JOA の集権体制が崩れれば後ろ盾がなくなり、インカレの渉外もできない。JOA の財政の再建と大会の権威の復興から JOA の集権体制を建て直す。</p> <p>大会としての価値は、全日本大会があることで全ての年齢層が同じ土俵で集まれる、他のスポーツにない魅力がある。インカレでもされていない、全てのクラスがきちんとコントロールされた大会を作り、それも大会の魅力としてこれから作りだす。インカレの先に全日本大会があるという位置づけのために学連に働きかけている。</p> <p>懸念としては学生 OB・OG に対して連絡できる場がない。各クラブの OBOG 会に対して全日本大会の存在を告知して欲しい。少しでも多くの人を集めたい。</p>
小泉	<p>セレクションとの融合はあくまで人を集める手段であり、それが目的ではない。全日本大会の改革は、インカレだけでなく日本のオリエンテーリング全体の構造の問題を直してすべての競技者が集い盛り上がる大会を作ることである。</p> <p>北東はセレクションとして全日本大会の採用をした。関東は採用しなかったものの全日本大会に参加したいという理由の不採用であった。日本学連としても全日本大会の改革に協力できたのではないかと思う。</p> <p>今後 2018 年以降も誘致する場合には前提として条件の枠組みを守って頂く。</p>
山川	<p>逆に学生から全日本大会へ働きかけて、共催の提案や要望を送ることもできることを忘れないで欲しい。関東学連にはセレクションの採用を見送られたものの、今回の議論は無駄ではなかったと考えている。</p>

小泉	全日本 21E 権保持者が全日本大会とセレクション共催の際に免除されることと、インカレの入賞者に全日本大会 21E 権を付与する件は JOA にも認められたため採用する。
小泉	セレクション免除者の枠を別枠にするかという問題について、地区学連枠を削る方法などについて議論がある。また、全日本大会 21E クラスに出走しなければインカレ E クラス出場権を得られるべきでないと考えている。
横田	地区学連枠を削る前提として、別枠を削らない人数上限を作ることでインカレエリート出場者数を制御するのはどうか。上限が 5 人なら全日本 5 位まで別枠。
山川	公認大会は簡単には増えないと考えている。申請期限は半年前だし、規約整備がされていない。新しい制度をつかって浸透するまでには時間も掛かる。いろいろな状況における詳細を検討しているように見えるが公認大会開催数は現状維持と考えている。
瀬川	地区学連枠を削る場合でも、別枠でインカレ E クラス参加者が増えるようにしても、学生の公認大会への参加者数は増えると思う。 横田の案について、全日本大会 5 位以内はインカレ優勝者レベルであるので、現状のインカレ入賞者を翌年セレ免除とする制度があるため、意味がない。また、全日本大会併設セレクションを走ると翌年のインカレ E 権を取る機会が減って不利になる。そのため地区学連枠を削るのが合理的かと思う。
小泉	別枠にすることで地区学連枠の配分変化スピードがあがる。しかしその程度のメリットしか無く、インカレ E クラス出場者数が増えすぎるのはデメリット。
坂野	枠を削ることで、地区学連枠の人数がわかりにくく、制度として複雑にならないか。
小泉	削るというよりも、枠をセレクションより先に取得するという表現が正しく、地区学連からインカレ E クラスに出られる人数は変わらない。
高田	枠が削られるというのは、現状での推薦と同様の形になるということか。
小泉	そういうことになる。
石山	地区学連枠が少ない学連は枠が埋まってしまう問題がある。つまりセレクションを開催しても通れる人数が 0 になることも考えられる。
小泉	それは危惧しているが、セレ通るようなひとが全日本大会 21E 権を保持しているのだから、セレクション開催をなくせばいいと思う。
山川	そうなった場合には地区学連に 1 枠付与すればいいのではないか。
小泉	それを適用してしまうと枠を削る制度が実態として別枠を許す制度になってしまって意味がない。枠を削るのはインカレ E クラスの出場人数をむやみに増やすべきではないという趣旨だと考えている。
下江	全日本大会 21E クラス出場者が多く、学連枠が埋まってしまった上でセレクションを開催したいならば全日本大会をセレクションと共催しなければ解決すると

	いうことになる。
小泉	全日本大会をセレクションと共催するのは目的ではない。
田中	これは経過措置であり、全日本大会の魅力が向上すればセレクション開催は意義がなくなる。適用は来年度からだし、詳細を検討する時間的余裕もないのではないか。日本学連の中で話を詳細まで決めて制御するのは難しい。
山川	そもそも全日本大会 E クラス出場権に関して、公認 E 権を失くすという議論が JOA である。私は全日本大会 E クラス出場人数がむやみに増えるために反対しているが、制度の詳細までここで詰めても学連の議論が根底から覆ってしまう可能性はある。
小泉	別枠としてインカレ参加者数を増やすのはデメリットが多く、地区学連枠を削る方向で考えていきたい。制度として 2018 年までのもので状況が変化する可能性もあるため日本学連での規約化はしない。これまでの結論は申し合わせとして残す。 全日本大会とセレクションを共催する場合の実行委員長や試走要員に学生 OBOG を運営者として募集する点について山川さんから連絡があったが、これまで議論をしていなかった。山川さんの意見を聞きたい。
山川	全日本大会の運営者で学生のコースを試走しても頼りにならないため、セレクションとする場合にはコースをコントロールできる人材がほしい。木村氏とはその点で認識の齟齬があった。セレクションを完全に全日本大会運営者に任せるのは学生に対して選考の公平性に関して責任は持てない。次回全日本大会を採用した北東学連とは個別に話し合う。
細	セレクション運営者が試走した場合には全日本大会に参加できないのか。
山川	ぜひ来てほしいが、無理強いはしない。セレクションとしてのコースについて要望を伝えて運営を丸投げされたらそれでも開催できると思う。
高田	北信越はいつもセレクション運営を丸投げしている。ノウハウも全くなく、試走回で役に立てるか疑問である。それでも試走して問題ないか。
山川	試走人数がやたらと増えるのも交通費がかさんでしまうため非効率である。その点についても今後個別に相談したい。
瀬川	セレクションに採用された場合の試走で交通費が支給されるということは、関東から OB が試走目的で運営に参加してもいいのか。
山川	試走されるとなると当日全日本大会の運営者になる。それはそれで有り難い。
小泉	900 人という参加者目標について、関東ブロック会議に参加した際に山川さんから回答をいただいたのでここで共有したい。900 人というのはオリエンテーリング大会に頻繁には参加していない、これまで拾いきれない層まで全ての競技者を集めた大会にしたいという意図だと伺った。
田中	学生と全日本大会が直接繋げられる、日本学連の行っている目安箱のような仕組

	みが必要だと思う。学生から働きかけてより良い大会へ作っていける意見を、幹事会での議論を通さない場があったほうがいいのではないかな。
山川	とりあえずはプロデューサーである私に連絡して欲しい。
瀬川	競技が好きな人は日程さえ合えば全日本大会へ来る。学生や学生 OB の中で、サークル活動として好きな層へアプローチするならば交通や宿泊の整備もしてほしい。参加費の値下げもしてほしい。前日イベントというわけではないが、前日の練習会なども自分たちで開催可能か。
山川	B クラスは競技者登録との関係もないので公認上乘せ金分を割引させて、参加費を格安にしたいと考えている。さらに A クラスと B クラスの締め切り日を変えて、B クラスへは気軽に参加できるようにしたい。また、宿泊に関しては市と協力して廃校を宿泊用に開放したいと考えている。私は運営で忙しいかもしれないが、前日に練習会なども開催したいということであれば運営者を募集して行って欲しい。
高田	新歓が終わった時期なので新入生が気軽に出来る全日本大会があるのは嬉しいが、今後の開催時期の目安はあるか。
山川	私がコントロールしている以後の開催時期の確約はできない。進展にめどが立てばプロデューサーの続投も考えられるが分からない。
坂野	常設委員会の機能について知りたい。
山川	私は JOA の中に入っていないので、プロデューサーをコントロールしてくれる JOA 内の委員会である。木村氏が作った。プロデューサーの退任後のことは考えられていない。トレインコントロールも全日本大会は私が行ったが、これによってインカレも全日本もトレインの予定の見通しが立っている。
瀬川	春インカレのトレインコントロールは山川さんではないが、連携はできるのか。
山川	日本学連には春インカレの担当理事が存在している。規約も存在するため、全く連携が取れないということにはならないはずである。

## インカレスプリント会計について

### 要旨

インカレスプリント会計の赤字補填案については理事の意見が少なく、学生だけで決めるべきではないとした。幹事会の方針としては、日本学連が赤字を補填すべきであり、インカレスプリントが盛り上がり、赤字が少なくなるよう参加費の値上げや参加者数増加の工夫を考えていきたい。

小泉	<p>アンケート結果から、選手権クラス参加層の値上げは好意的だったがそれ以外の参加者層の値上げは消極的だった。アンケート結果は次回インカレ実行委員会へ送る。</p> <p>しかし参加費の値上げをしたところでスプリント部門の赤字は発生しうる状況にある。それは秋インカレ実行委員会が外部団体への業務委託制を用いており、秋インカレの開催初期の形態として OBOG の負担を避けつつ、利益が出しやすいロング大会を開催してもらおうという団体を募集したものだ</p>
小泉	<p>方針としては</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 実行委員会方式。春と同様の運営主管。会計も学連の負担。年 2 回のインカレ開催は運営者の負担が大きく、継続性に疑問がある。赤字の埋め合わせの根本原因が解決しない</li> <li>② 繰越金制度。スプリントで発生する赤字を春インカレの黒字で埋める。スプリントの経費変動が抑えられる。使用用途や赤字黒字の目安が大会を越えて維持できないのではないかと。</li> <li>③ 会計主管のみ日本学連が負う。運営主管が外部団体になるが、会計は学連が負う。赤字を補填するが黒字も学連になる。しかし外部団体にも開催のメリットがある形にしたい。</li> </ol> <p>この 1,3 の方式がどちらでも活用できるような規約制定ができるとよい。秋インカレについて業務委託制の規約は存在しない。インカレロングの担当理事である木村さんが開催できる外部団体を見つけてきてお願いしているのが現状。スプリントについては担当理事すらいないが、現状は木村さんの負担になってしまっている。</p> <p>スプリント赤字について 2014 年秋のあわらインカレ実行委員長の山上さんから、スプリントはチャレンジクラスや併設大会の参加者が少なかったため赤字になったと聞いた。モデルイベントとスプリントの共催、選手権参加費の増額や併設クラスの参加者を増やすことが赤字解消と継続性のために必要と考えられている。</p>
瀬川	<p>インカレの運営をしていない以上、どれが運営者にとって本当に負担の少ない方</p>

	式なのか判断できないし、するべきでない。赤字にならないように考えられることを考えるべき。
田中	赤字は埋めないと開催できないのなら、日本学連が補填するべき。
山川	今年度のインカレスプリントについては YMOE 社の会計責任で開催していたが、私の給料としては日給 3600 円という計算になってしまった。スプリント開催の旨みは無いと言っていい。
瀬川	インカレスプリントの魅力を向上させるべき。選手権人数を増やすことはできないか。フォレストで練習が多くできない学連にとってもスプリントは練習機会の公平性がある。選手権人数増やすことで会計的メリットだけでなく普及の意義から選手権人数を増やせるならいいのではないか。
小泉	選手権人数の妥当性については今後考えていきたい。インカレスプリント会計上の赤字を日本学連が補填するという方向性に異論はないか。
山川	スプリントやロングのトレインは学連所有トレインにならず、赤字が出る上にトレイン資産にならない。作成したトレイン版権を地元県協会等が買い取ってくれたことでなんとかなっていたものの、うまく回っていない。補填額も数十万円になり、総会での決議が必要になる。
小泉	学連の設立目的からもインカレ開催の赤字は出すべきだと思う。
山川	赤字補填の手続きはどのような仕組みにできるか。そもそも赤字を発生させてしまったら運営者にとっても申請しにくい。言いづらい。前回の秋インカレではざっと 150 万円足りないことになり、私が負担した。この会計負担を運営者が負うと苦しい運営となってしまう、秋インカレを持続できない。
田中	大会にもよると思うが、150 万円あげるつもりで制度をつくるべきなのか。日本学連会計から考えて、学生にとっての負担額は年間 1500 円程度ということになる。
山川	日本学連会計も黒字で、近年は地収収入が多い。学生の金銭負担を大きく増やさずにスプリントの赤字を補填することは不可能ではないと思う。
小泉	金額の線引きや基準については運営の実態を把握していないので決められない。赤字は補填するべきという方針で、理事や実行委員会とも相談して考えていく。
小泉	インカレスプリントの一般参加者を増やす方法、魅力の向上を考えたい。
山川	そもそも世界でもスプリント大会は参加費だけで運営がまわっていない。スポンサーや大きな組織がついている。交通規制など苦労があるが、競技として魅せる意義も大きい。今後の進展の様子を見ている。
細	選手権クラスの人数を増やすことでチャンスを提供し、盛り上げたい。
山川	盛り上げるために予選決勝方式を考えたこともあるが、運営負担が大きく諦めた。

田中	これからもインカレスプリントが開催されるとは限らない。いま話し合っても埒があかないので理事会の意見を待ったり、加盟員へのアンケートを行っていくしか無い。
細	これから秋インカレやインカレスプリントが普通に受け入れられていけば参加は当たり前になっていくのではないか。自分たちの世代にとってインカレスプリントは新しいものだから参加をためらう人もいただろうが、今後開催と参加が当然になっていけば参加者数は増えるのではないか。
小泉	今後の値上げなども検討しつつ、様子見るしかない。

## 会計中間報告

成澤	<p>中間決算について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校登録手続きに誤解が合って変更がある。</li> <li>・賛助金は振込が落ち着いてきている。</li> <li>・技術委員会は学連合宿を開催していないので 0 となっている。</li> <li>・部局活動費も口頭ではいくらか聞いているが書面や領収書を受け取っていないのでこれも現時点で 0 とした。</li> <li>・ファミテックからの寄付が 10 万円あったが報告作成後だったのでここには記載していない。</li> <li>・活動報告書作成費は計 50 万円を予算としていたが、値切ったものの 90 万円だった。今後の予算に関わってくるので次回作成時の目処を知りたい。</li> </ul>
小泉	昨年度は議事録が 60 ページ近いときもあったため、分厚くなり費用がかさんでいたのではないか。今年は議論の要約がされていて 25 ページ程度にまとまっているのでそれほど高額にはならないのではないか。
坂野	要約ができるのは議論前に資料がまとまっていたためでもあって、議事録が減っても資料は多くなっている。
成澤	<p>予算案について</p> <p>インカレの黒字返金額が多いので 90 万円から 50 万円に減額 活動報告書は 50 万円を維持したい。</p> <p>臨時幹事回を開催したため幹事会活動費が多くなった。2 年連続で臨時幹事会を開催していることもあって予算を増やす。1 回会議が増えると 30 万円程度かかる。</p>
坂野	一部の人には打診していたが、広報の負担が大きいため、来年度部局員として 1 名幹事を増員したい。私も部局長を留任して 2 人体制で活動していきたい。その

	ため幹事会交通費が 1 人分増額することになる。また、今年インカレ実行委員会の作成する観戦ガイドを広報部予算で買い取り、加盟校ごとに配布するという事になった。1 部 100 円で 50 部、5000 円となっている。
小泉	幹事会費の予算増額について意義はないだろうか。私は問題ないと思う。
成澤	幹事会費の予算を 30 万円増額する。
山川	地図会計報告としては、いまのところ一昨年並、去年ほどの収入はない。

### インカレリレー特例措置について

特例措置を毎年行っているため、あらためて意義について話し合った。大学対抗というインカレリレーの意義と、加盟人数が少ない大学にも機会を与えるという普及目的の落とし所を探すべきとの要請がインカレ実行委員会からある。特例措置の基準や規約化についての幹事会の方針決定、学連として必要か必要でないか議論したい。

小泉	今回のインカレリレーでは女子選手権で武蔵野と東京大のチームが適用された。特例措置が必要か、必要でないか意見はないか。以前は適用について理事会決議で行っていたが、近年は実行委員会に申請している。
坂野	前回幹事会での木村さんの意見、インカレ実行委員会はインカレ実施規則に則ったことを行い、規則にない措置は実行委員会の範疇で、日本学連の方針としては規約化できないということではないのか。
小泉	実行委員会へは幹事会として毎年特例措置の採用をお願いしている。規約化の有無にかかわらず、この措置の採用は学生の判断に委ねられている。
上野	東工大女子はリレーが組めない。本人は実力が足りないという理由から特例措置の利用は見送っている。
成澤	特例措置を利用したことがあるからこそ自分の大学で出たいという気持ちになった。
小泉	慶應女子も同様に、新歓頑張ろうという気持ちになったようだ。
坂野	東京理科大学も 2 年前に私が利用している。昨年と今年は無事大学でチームを組んでいる。やはり新歓が重要であり、特例措置はいい機会だと思うのでこの制度は必要だと思う。
横田	特例措置を利用したチームが上位に食い込むのはインカレの趣旨に反するのではないか。ルール作りがなされるべきであり、趣旨に反するチームを認めるべきでない。3 人以上の加盟員がいる大学が特例措置を利用するべきではない。
下江	広島は組める他の大学がいなかったため利用していないが、利用はしたかった。

高田	新潟女子も 2 年前に特例措置を利用した。新歓など活動のモチベーションも上がったようで、次年度につながる。
小泉	不要論はあるか。
細	横田と同様に速い選手が特例措置を利用して上位に食い込むのはインカレの意義から言って不満がある。表彰台を荒らされたという印象を持つ。普及の意義は分かるが、インカレの意義を優先して欲しい。
下江	特例措置は申請さえすれば全て通ってしまう。普及の意義だけに利用できるように審査基準をつくれないうか。
坂野	審査基準は現状で主観的。基準を数値化・言語化することは難しいように思う。
石山	今回のインカレ出場する女子混成チームは東大 2 人、武蔵野 1 人から成る。これらの大学の加盟員数やインカレ参加者数までは分からない。
小泉	特例措置が必要という意見は幹事会としての意見でいいか。それについても、3 人以上学連登録者がいる大学でも、無理に選手権クラスへ出場することは運営に迷惑がかかる可能性があるために、アンケートの結果特例措置を利用できるとしたことがあった。
田中	無理な選手権クラス出場を危惧するならば、加盟員が 3 名以上いる学校は一般混成クラスに出るべきだと思う。特例措置を利用するべきではなく、加盟員が 3 名以上いるならば特例措置を利用するべきではない。
小泉	3 名以上の加盟員がいる大学でも特例措置を利用できるとすると、混成チームで特別表彰を狙いに行くという、インカレの趣旨を逸脱してしまうチーム編成を助長させてしまうということか。団体戦でそのようなチームが存在すると、他チームのナビゲーションにも影響する事が考えられる。
瀬川	3 名以上加盟員がいる大学において、上級生の意図で団体戦に大学で出場してしまうような場合はあると思う。下級生は断りにくいし、3 名以上の加盟員がいる大学でも特例措置を利用できるようにしたら良いと思う。
小泉	それは大学ごとの義務であって、チーム作りの一環である。大学の責任ではないか。
瀬川	下級生も含めて 3 人以上在籍する大学でも、上級生が特例措置を利用した時に、故意に表彰を狙う意図が生じるとは思えない。むしろ下級生の実力や意志を尊重する意図を、学連としても配慮できないだろうか。
小泉	だからこそ 3 人以上登録している、インカレリレーに正規出場できる学校が普及の意義を無視して他大学と組むのはインカレの意義に反しているのではないか。それができないのならチーム作りに失敗していて、インカレリレーという大学対抗の部門に出場すべきチームではないと個人的には考えている。

坂野	3人以上登録している大学は、下級生の実力や意志を加味して一般クラス等に出るか、無理やり大学チームとして選手権クラスに出場して最難易度のクラスを体験することで大学クラブ普及発展を狙うという選択を行うべき、ということか。
小泉	この3人という基準を加盟人数にするか、インカレ出場人数にするかという点でも意義が大きく異なってくる。
田中	特別表彰を廃止して、参考記録にしてはどうか。
小泉	それにしても、大学対抗という意義や、普及促進としての特例という意味では、3名以上いる大学は特例措置を適用するべきではないと思う。
高田	特例措置は特例であって、少しでもリレーに出られる可能性を持つ、3人以上が加盟登録した大学は選手権クラスに出場するべきではないと思う。3人揃ってもリレーを目指せなかったのはチーム作りの失敗であって普及の促進とは違う。
吉澤	日本女子大学では競技以外のいろいろなオリエンテーリングへの関わり方を認めている。特例措置を参考記録にして、3人以上加盟登録した大学でもリレーに出られるようにしてもらえると、競技が楽しみたい人も、クラブとしてインカレの雰囲気を楽しみたい人も、インカレと一緒に楽しめると思う。
堀江	東北大学でも競技志向のひと、クラブが好きの人、いろいろいる。東北大は人数が多いから問題は表面化しないが、無理にでも選手権に出場したい競技志向のひとは必ずいるだろうし、上級生に追従して気を使ってしまう下級生が不本意に出場をすることもあると思う。人数が少ない大学で問題になってしまうことは分かる。
小泉	人が少ないなら増やす努力をしてほしいし、実力が足りないならチームで実力をつけるサポートをして欲しい。選手権クラスはそういう最高峰の舞台だという意義が前提にあって、普及の観点で作った特例措置によってインカレの意義を崩すべきでないと思う。
田中	折衷案としてのインカレエントリー人数を基準として特例措置基準人数とするべきだろうか。
瀬川	確かにこれまでの意見は正論として認めるが、選手権クラスの意義を理解して、普及の努力した上で、現状で部員が集まらない、という苦しい状況がある。どうやったら人が集まるか毎年努力しているが2年間、人が集まらない。
坂野	3名以上インカレに出場しているということは、十分にクラブに参加していて、オリエンテーリングに向き合っている人数と思う。安くはない参加費や遠くまで来ている以上は、選手権クラスに出ないという選択をするなら下級生への配慮などは不要で、特例措置を認めるべきでないように感じる。インカレには来ていて、リレー選手権には出る実力が及ばない、という大学はあと何が足りないのだろうか。

吉澤	今年の日本女子大学チームは 2 人が 1 年生で、選手権クラスに出たいと言ってくれた。3 人集まらなかったら一般クラスも検討していたため、特例措置の利用は考えていなかった。
成澤	フェリスでも同様だった。1 年生が競技を頑張ってくれていて、選手権クラスに出たいと言ってくれた。もしそうでなく、インカレに後輩を連れてきているのにの上級生だけ混成チームで選手権クラスに出るようなことはしなかっただろうし、するべきでない。
小泉	大学のインカレエントリー人数が 3 名以上の大学は特例措置を認めない基準を幹事会意見としたい。特例措置の判断基準はこれで明確になったので、責任や認定は運営者ではなく日本学連幹事会にあるということにしたいが問題ないか。
田中	特別表彰は廃止するべき。入賞相当のタイムが出たところでそのチームの出場はインカレの意義に反するため表彰するべきではない。
中村	3 人以上登録した大学には特別表彰を認めるべきではないと考えていたが、2 名以下の少人数大学が努力したのであれば認めてあげたい。あってもいいと思う。
山本	逆に、2 名以下の大学に表彰するのは次年度以降の普及の観点から表彰するべきではないと思う。
成澤	自分も特例措置を利用してあと一步で入賞相当というところだったが、選手権クラスに出られたことに意識があったので、もし入賞していたとしても表彰の意味はわからなかったと思う。
細	表彰はするべきではないと思う。あくまで参考記録。機会提供が目的であり、表彰は必要ではない。
佐藤	表彰することで特例措置を推奨してしまうのではないか。
小泉	幹事会として特別表彰は無くすべきで、参考記録にするという意見が多数である。では、特例措置の規約化はするべきか。実行委員会は規約に沿ってインカレを開催している。特例措置は規約にないため消える可能性もある。正式な記録にならないものを規約にするべきではないかもしれない。また、規約でなくてもガイドラインの制定はできる。
下江	これまで存在が曖昧だった。毎年幹事は変わっていくため制度化しないと意義が引き継がれない。アンケート等によって意見は簡単に変わってくる。突然制度が無くなったりしないために規約化はしてほしい。
中村	ガイドライン化のデメリットは何か。
小泉	強制力はなく、幹事会によっていつでも改変できてしまうため意義が曖昧になる。規約化すれば新歓から 1 年間の時間があるためチーム作りの準備もできる。
坂野	規約化すると普及の観点から意義がぶれないだろうか。毎年特例措置があるから新歓しなくてもいいとまでは言わないが、特例措置の利用を前提とするべきでは

	ない。規約化してしまうのは木村さんの言っていたようにインカレの意義に反する規約となってしまう。ガイドラインで抑えて欲しい。
田口	岩手大学では B クラス基準のガイドラインの存在があまり浸透していないように感じた。ガイドラインは浸透するだろうか。
小泉	私からも広報していたが地区学連幹事長もしっかり普及させて欲しい。
小泉	ガイドラインについても幹事会方針として、これまでの幹事会の意見をまとめ、春インカレの担当理事である海老さんに相談する。結論は今年度中に出せない。

## 加盟校形態について

### 要旨

幹事会としての方針はまとまらなかったものの、加盟校基準は「学連登録 3 名以上＋日本学連と地区学連総会への出席」の意見が複数あった。加盟校形態は日本学連という組織の形態を再考しなければならない大きな問題なので、理事の意見も仰ぎながら来年度時間をかけて検討していく。

小泉	加盟校の意義を考えたい。これも結論も今年度中に出せないため幹事会としての方針決定をしたい。これまでの議論は加盟校からの意見であり、日本学連が組織として、そのまま受け入れられるものではなかった。 理事からの受け売りだが、日本学連は日本の学生オリエンテーリングを統括している唯一の団体である。最高意思決定機関は総会で、その構成員は加盟校であり、加盟校に 1 票である。加盟校であって加盟員の意思決定機関ではない。大学を代表するオリエンテーリング団体に対しては全て 1 票を与えるべき。 日本学連の意義がインカレの開催である以上、大学を代表するオリエンテーリング団体はすべて加盟校にするべきだが、大学を代表するクラブとして認めなければならない。この基準をこれまでは人数としていたが、人数とする必要もない。
坂野	大学を代表するクラブというので問題になったのは、数年前の立教大学の件がある。大学内に 2 つのオリエンテーリングクラブがあって、片方が学連登録していたということがあった。
瀬川	1 校に 2 団体あった。大規模な方のクラブが学連登録をしているが競技の実態がなく、小規模な方のクラブはしっかり競技しているというちぐはぐな状態が一時期存在していた。現在は解消されている。
坂野	他のスポーツ団体を参考にできないか、陸上や野球など。
小泉	調べていなかった。それか、リレー出場人数である 3 人を基準にする。
瀬川	3 名以上＋地区学連総会への出席で地区学連が加盟校を認める形がいいと思う。

小泉	少人数校が渉外を輩出するという負担が問題にならないだろうか。
坂野	人数が多くても渉外を輩出しなかったら地区学連の判断で加盟校と認定しなければいいということか。地区学連の判断基準は全地区で統一する。具体的な会議への参加回数や基準は分からない。
瀬川	関東は総会に参加しやすいが、他学連については分からない。
小泉	他の地区学連も選考会など集まりやすいタイミングで総会をしている。
田中	インカレリレーの意義から、リレーに出るには加盟校になるべき。
坂野	加盟校基準を 3 名以上+総会出席とすると、3 名の大学は負担が増える問題はある。しかし学連の方向性や設立趣意から言って、総会への参加は団体の人数にかかわらず重要であると考えている。リレーへの出場ハードルは少人数校にとって上がってしまうが、それはインカレのために学連があるという存在意義からして日本学連総会への出席はインカレ出場にも必要なことであり、現在のように 5 人や 10 人といった規模の団体でないと難しいのかもしれない。
小泉	現状では準加盟校もリレーに出場できる。この議論は日本学連の存在意義に関わるものなので結論は急がないで来年度も意義を考えて欲しい。

### ファミテックとの連絡について

小泉	ファミテックから頂いている日本学連への寄付金の存在や、その連絡体制が山川さんに依存していた。日本学連幹事長として直接やりとりすべきであった。ファミテックのインカレ広告掲載についても同様であった。幹事長である私が把握するべきだった。来年度以降はよろしく願います。
----	--

### 地図管理について

山川	地図販売代金 350 円の設定はとても厳密に議論し考えたものだが、新機軸事業の普及と発展によって黒字がかさんでいて、300 円にしても充分日本学連会計はまわるように思う。
坂野	トレインの価値としては 350 円でも安すぎる。あの精度の地図とトレイン渉外は値段以上の手間がかかっている。
山川	学生の練習頻度が増えていて、1 回あたりの枚数も多い。こちらで地図を加工して枚数が少なく、学生の負担が少なくなるようにもしている。
田中	価格を下げる必要はないと思う。お金の使いみちはインカレなど他にある。
小泉	練習会を多く開催したが、学生に対して地図をかなり安く提供してくれるクラブもあった。それと比べると学連の地図は高く感じてしまう。

山川	現状維持をしたいと思う。こうやって改めて制度の見直しができてよかった。新機軸事業第 5 弾も申請があったので次回幹事会で提出する。
坂野	インカレスプリントの持続についてもそうだし、JOA も困窮しているし、日本学連の余剰金は今後役に立つ可能性があるかと個人的に思う。JOA が現在金銭的に困窮しているのは、競技者登録者数の過半数を占める学生からの登録金をほとんど無料にしていることも理由としてあると聞いている。関東甲ブロック会議でも公認大会費が高く学生への優遇もないのは、登録金を学生から受け取っていないことが理由としてあげられていた。今後日本学連として JOA への加盟費が値上がることもおかしくはないのではないだろうか。
小泉	JOA との関係や全日本大会については来年度しっかり議論して欲しい。

### 後援大会申請

吉澤	岩手県立大学大会 (全会一致 12 で承認)
吉澤	第 40 回東北大学大会 (全会一致 12 で承認)
吉澤	名大楢木大会 (全会一致 12 で承認)

### 技術委員会

小泉	技術委員会からの伝言だが、技術委員会合宿は開催していない。 シード選手を決定した。
----	--

### 理事会報告

山川	理事会を明日開催する。なお、面と向かって行う理事会は数年ぶりである。
----	------------------------------------

### 各部局活動報告

小泉	関東ブロック会議に日本学連代表として参加した。
成澤	会計では中間報告書と予算案を作成した。活動報告書の精算をした。 今後は賛助会費を整理することと、決算に向けてこれまでの会計業務をまとめていく。 今月末に次期会計の竹内に引き継ぎを行う。その際にみずほ銀行に対して規約や議事録や名簿を提出することになっている。

細	普及部では観戦ガイドを作成した。総会で次期普及部長の承認と今後は観戦ガイドのアンケートを行う。
堀江	矢板日光地区の渉外について 5 月 10 日のまでの使用について回覧を作成した。
坂野	広報部では本日いぶきの掲載、第 65 回総会と第 3 回幹事会議事録を作成した。
吉澤	事務局では第 39 回東大 OLK 大会の承認書を送った。第 38 回東大 OLK 大会、第 21 回京大京女大会、第 10 回岩県大会の渉外報告書を受け取った。広報部にはこれまでの渉外報告書約 10 件の掲載場所を新しく整備していただきたい。

### 地区学連報告

小泉	代読。北東学連は 3/17 総会、役員引き継ぎを行う。6 月にロングセレ前半戦を行うことが決定した。
高田	北信越は今後 3/20 に総会、役員引き継ぎと来年度セレ選定を行う。
関東	2/4 の山リハで関東インカレ団体戦、2/28 に第 4 回総会、7/2 に鳥追窪でロングセレ、7/23 にスプリントセレを調整中。
東海	今後は 3/27 総会と引き継ぎ、7/9 に東海インカレであるセレを開催する。
関西	2/19 総会、2/25 に臨時総会を行った。今後は 3 月中に引き継ぎを行う。
下江	中九四学連は地区学連規約を制定したので次の総会で承認してもらいたい。今後はミドル/スプリント/ロングの実施セレ規約を作成して来年度から適用したい。

### 次回幹事会について

小泉	2017 年 6 月 3 日に、東大大会にあわせて静岡で開催する。
----	-----------------------------------